



おおさかパルコフ

発行/生活協同組合おおさかパルコフ
大阪府都島区東野田町1-5-26
TEL: 06(6242)0904
FAX: 06(6242)0926
発行責任者/山本邦雄 編集/理事会室

当面の間、通常の「ぱるタイム」作成を休止し、震災臨時号を発行いたします

<http://www.palcoop.or.jp>

被災地に届けたい！わたしたちの想い

CO・OP共済からの呼びかけに
約60,000羽の折り鶴が
寄せられました(5月6日現在)



◆折り鶴づくりにご協力ありがとうございます◆

組合員さんよりいただいた折り鶴は、被災地でのお見舞活動や給付の案内に活用させていただきます。

ご協力いただける方は、「6センチ×6センチ～10センチ×10センチ」の範囲の大きさの折り紙をご使用ください。また、包装紙や赤・黒・白・灰・金・銀の用紙はご遠慮いただきますようお願いします。

完成した鶴は、たたんだ状態で配送担当または店舗の職員にお渡しください



チラシ見て折ったよ～(北枚方支所の組合員さん)



「阪神淡路大震災の時に親戚が被災にあい、その時から一人でコツコツと折りためていた1000羽を今回出しました」(写真左・寝屋川支所の組合員さんより)

被災地生協の共済訪問に パルコフからも支援に行っています

いわて生協へ支援(4/24～5/9) 共済担当職員



組合員さん宅に向かう(4/27)

大船渡市と釜石市の組合員さんや、避難所を訪問しました。お会いできた組合員さんはお見舞金が支払われること以上に、生協が訪問したことに感謝の言葉をいただきました。一部壊(家屋・家具の被害が20万円以上)の組合員さんは「うちは被害がなかったから…」とおっしゃられる方が多くおられましたが、壁や床の亀裂など具体的に聞きするとお見舞金の対象になるお宅がほとんどでした。(共同購入本部共済・山城誠)

岩手県船越湾周辺の23軒の共済に加入されている組合員さん宅の訪問を予定していましたが、道路が津波で流されておりご自宅へ訪問できない状況でした。防波堤が破壊されて周辺の家屋を流してしまったと、いわて生協の方からお話を聞きました。北側でも被害の大小があり、訪問した組合員さんにお会いできたときは、ホッとしました。(共同購入本部共済・青山正一)

～明日の暮らし、ささえあう～

全国から生協職員が日本生協連の呼びかけに応じて被災にあった東北地方を中心に被災されたCO・OP共済加入の組合員さんに、被害に応じてのお見舞金やケガ通院などの共済金をご請求いただくため、ご加入者のお宅を1軒1軒訪問、避難所への訪問などの活動をしています。今回お支払いしているお見舞金などは、CO・OP共済にご加入の皆さまからお預かりしている掛金から支払われています。本当に困ったときに助け合える。それが生協、CO・OP共済の「助け合い」です。

5月2日現在の被災地での訪問件数: 17,463件

【重要】「東日本大震災」による 今後の商品供給の見通し

下記の商品は、ご注文いただいてもお届けできなくなりました(5月9日現在)。また、下記以外にも引き続き、工場・物流センターの被災により原料や資材の不足など、申し訳ございませんが、お届けできなくなる場合があります。ご理解のほどお願いいたします。

来週(5月3回)にお届けできない商品 ※請求明細に記載されません

注文番号	パル企画商品名	状況
518	アロエヨーグルト(70g×3)×2	資材不足

さ来週(5月4回)にお届けできない商品 ※請求明細に記載されません

※今のところありません。

今週お届けできていない商品につきましては、請求明細または個人別のお知らせをご覧ください。

商品および、配送のお問い合わせは
組合員サービスセンター ☎0120-409-555
携帯電話からは: 0570-085-555(有料)
(月～金 午前9:00～午後10:00/土 午前9:00～午後5:00)

5月9日より新たに、支所の共済担当者が順次共済支援に行く予定です。

いわて生協の釜石支部・けせん支部で 配送同行しました

(パルコフ配送支所支所長など14名)
5月3日～5日

沿岸部の釜石支部(配送センター)では約2500名の組合員さんと確認が取れ、共同購入を再開されていましたが被災したり避難場所に居られる組合員さんが多く(震災前は4000名の利用)、配送コースも12から8に減らして配送していました。車を失くしスーパーマーケットも流れたからと、すぐに個配を始めた方や、仮設住宅に入ったら再開したいという組合員さんの話も聞きました。いわて生協の職員は避難所から通勤する人も多かったですが、毎日組合員さんと会えることを励みに明るく配送しておられました。(西成支所・衣川敦士)



いわて生協の配送担当者

今後についてパルコフでは、被災地を見守り、息の長い支援活動をすすめています。